

自社プラ冷熱アプリ、進化と進展

長谷川鉄工 冷熱エンジン 好調を持続 地場冷設工事会社とも連携



小野 良二社長



狩野 剛一取締役

業でこれらのアプリが大規模の低温物流倉庫などで採用実績を増やし、一層の普及に向けて加速感が伴ってきた。今期も自社のエンジニアリング部門による直需提案に加え、地場の冷設工事会社とも連携を図り、自社アプリの拡販を目指す。

「新型コロナウイルス禍でもボジティブ思考を貫ける真付けとなっているのは、自社ブランドの冷熱アプリへの手懸えだ。『一足飛びには行かないが、着実に、国内・海外の双方で低温物流倉庫向けの採用実績を増やしている』(小野社長)。特に国内事業で同社の主要顧客である低温物流倉庫会社社教社に対し、採用実績が広がりを見せるのがNH₃/CO₂冷却システム「NiCRE」(ニクレ)だ。同システムアプリは地球温暖化係数(GWP)がゼロのアンモニア(NH₃)と、GWPがわずかに二酸化炭素(CO₂)の2種類の自然冷媒を組み合わせた、冷熱システムを構成するもの。メカニカルシールの半密閉型圧縮機の開発や

CO₂液ポンプにキャンドモーターを搭載しており、NH₃系統・CO₂系統ともバックレスバルブを採用した上で配管のステンレス化による腐食対策などを施している。冷媒の外部への漏えいを限りなくゼロに近づける仕組みを設けているのが特長。省スペースでメンテナンス性にも優れる。

今年から「NiCRE S」のシステム効率を高めつつユニットを小型化した改良版を投入。大手食品・冷蔵倉庫会社の冷蔵倉庫向けに2基納めた。別途、今期中に10数件の納入予定を控えているという。また庫内側のアプリでは、自然対流&ふく射冷却新システム「Yuricargo」(ユリカーゴ)の冷却効率をさらに高め、F級温度帯でありながら、セミ超低温保管と同等の品質を実現させたシステムとなるようブラッシュアップした。その上で、荷さばき室に高効率太陽放射温調システム「DEMS」(ディームス)を併用する提案を同社は実施。採用に至る事例が複数あったようだ。茨城県

産業用冷凍機メーカーであり、自社製冷凍機を用いた冷熱エンジンアプリの普及も手掛ける長谷川鉄工(社長・小野良二氏、本社・大阪市港区波除1-4-39)は今期(2020年9月期)、冷凍機販売が国内外で堅調に推移。冷熱エンジンアプリンギ事業も好調を維持している。自社ブランドで展開中の冷熱アプリケーション(アプリ)にも進化と進展が見られる。同社は冷熱源側のアプリではNH₃/CO₂冷却システムや超低温二元冷凍システムを、庫内側のアプリでは自然対流&ふく射冷却新システムや高効率太陽放射温調システムを自社ブランド名の下で商品化。国内事業と海外事業で訴求している。特に昨年来、国内事

業でこれらのアプリが大規模の低温物流倉庫などで採用実績を増やし、一層の普及に向けて加速感が伴ってきた。今期も自社のエンジニアリング部門による直需提案に加え、地場の冷設工事会社とも連携を図り、自社アプリの拡販を目指す。

「新型コロナウイルス禍でもボジティブ思考を貫ける真付けとなっているのは、自社ブランドの冷熱アプリへの手懸えだ。『一足飛びには行かないが、着実に、国内・海外の双方で低温物流倉庫向けの採用実績を増やしている』(小野社長)。特に国内事業で同社の主要顧客である低温物流倉庫会社社教社に対し、採用実績が広がりを見せるのがNH₃/CO₂冷却システム「NiCRE」(ニクレ)だ。同システムアプリは地球温暖化係数(GWP)がゼロのアンモニア(NH₃)と、GWPがわずかに二酸化炭素(CO₂)の2種類の自然冷媒を組み合わせた、冷熱システムを構成するもの。メカニカルシールの半密閉型圧縮機の開発や

CO₂液ポンプにキャンドモーターを搭載しており、NH₃系統・CO₂系統ともバックレスバルブを採用した上で配管のステンレス化による腐食対策などを施している。冷媒の外部への漏えいを限りなくゼロに近づける仕組みを設けているのが特長。省スペースでメンテナンス性にも優れる。

今年から「NiCRE S」のシステム効率を高めつつユニットを小型化した改良版を投入。大手食品・冷蔵倉庫会社の冷蔵倉庫向けに2基納めた。別途、今期中に10数件の納入予定を控えているという。また庫内側のアプリでは、自然対流&ふく射冷却新システム「Yuricargo」(ユリカーゴ)の冷却効率をさらに高め、F級温度帯でありながら、セミ超低温保管と同等の品質を実現させたシステムとなるようブラッシュアップした。その上で、荷さばき室に高効率太陽放射温調システム「DEMS」(ディームス)を併用する提案を同社は実施。採用に至る事例が複数あったようだ。茨城県

内での冷蔵倉庫新築案件では、冷熱システムに「NiCRE」が、庫内側には「Yuricargo」(ユリカーゴ)が採用され、3月に竣工(しゅんこう)した。沖繩県内の低温物流倉庫会社向けの「NiCRE S」と超低温二元冷凍システム「CARUS」(カールス)の双方が冷熱源システムに同時採用され、今年中の完工を見込む。国内受注状況に加速感が伴ってきた。

長谷川鉄工は自社で顧客を囲い込む営業に固執しない点も企業カラーとしている。例えば東北地区では、同社の冷凍機販売先となる冷設工事会社が精力的に「NiCRE S」を顧客に提案。長谷川鉄工が技術支援に回る形で同冷設工事会社と長谷川鉄工がWIN-WINの関係構築を築いた上で「NiCRE S」を販売できた事例がある。「日ご

業でこれらのアプリが大規模の低温物流倉庫などで採用実績を増やし、一層の普及に向けて加速感が伴ってきた。今期も自社のエンジニアリング部門による直需提案に加え、地場の冷設工事会社とも連携を図り、自社アプリの拡販を目指す。

「新型コロナウイルス禍でもボジティブ思考を貫ける真付けとなっているのは、自社ブランドの冷熱アプリへの手懸えだ。『一足飛びには行かないが、着実に、国内・海外の双方で低温物流倉庫向けの採用実績を増やしている』(小野社長)。特に国内事業で同社の主要顧客である低温物流倉庫会社社教社に対し、採用実績が広がりを見せるのがNH₃/CO₂冷却システム「NiCRE」(ニクレ)だ。同システムアプリは地球温暖化係数(GWP)がゼロのアンモニア(NH₃)と、GWPがわずかに二酸化炭素(CO₂)の2種類の自然冷媒を組み合わせた、冷熱システムを構成するもの。メカニカルシールの半密閉型圧縮機の開発や

CO₂液ポンプにキャンドモーターを搭載しており、NH₃系統・CO₂系統ともバックレスバルブを採用した上で配管のステンレス化による腐食対策などを施している。冷媒の外部への漏えいを限りなくゼロに近づける仕組みを設けているのが特長。省スペースでメンテナンス性にも優れる。

今年から「NiCRE S」のシステム効率を高めつつユニットを小型化した改良版を投入。大手食品・冷蔵倉庫会社の冷蔵倉庫向けに2基納めた。別途、今期中に10数件の納入予定を控えているという。また庫内側のアプリでは、自然対流&ふく射冷却新システム「Yuricargo」(ユリカーゴ)の冷却効率をさらに高め、F級温度帯でありながら、セミ超低温保管と同等の品質を実現させたシステムとなるようブラッシュアップした。その上で、荷さばき室に高効率太陽放射温調システム「DEMS」(ディームス)を併用する提案を同社は実施。採用に至る事例が複数あったようだ。茨城県

内での冷蔵倉庫新築案件では、冷熱システムに「NiCRE」が、庫内側には「Yuricargo」(ユリカーゴ)が採用され、3月に竣工(しゅんこう)した。沖繩県内の低温物流倉庫会社向けの「NiCRE S」と超低温二元冷凍システム「CARUS」(カールス)の双方が冷熱源システムに同時採用され、今年中の完工を見込む。国内受注状況に加速感が伴ってきた。

長谷川鉄工は自社で顧客を囲い込む営業に固執しない点も企業カラーとしている。例えば東北地区では、同社の冷凍機販売先となる冷設工事会社が精力的に「NiCRE S」を顧客に提案。長谷川鉄工が技術支援に回る形で同冷設工事会社と長谷川鉄工がWIN-WINの関係構築を築いた上で「NiCRE S」を販売できた事例がある。「日ご

りながら、各種冷熱アプリの国内浸透を一層図っていききたい(狩野剛一取締役・冷熱技術センター長との意向だ。それ故「全国各地を対象に、地域ごとの協業先を引き続き募っていく」としている。

業でこれらのアプリが大規模の低温物流倉庫などで採用実績を増やし、一層の普及に向けて加速感が伴ってきた。今期も自社のエンジニアリング部門による直需提案に加え、地場の冷設工事会社とも連携を図り、自社アプリの拡販を目指す。

「新型コロナウイルス禍でもボジティブ思考を貫ける真付けとなっているのは、自社ブランドの冷熱アプリへの手懸えだ。『一足飛びには行かないが、着実に、国内・海外の双方で低温物流倉庫向けの採用実績を増やしている』(小野社長)。特に国内事業で同社の主要顧客である低温物流倉庫会社社教社に対し、採用実績が広がりを見せるのがNH₃/CO₂冷却システム「NiCRE」(ニクレ)だ。同システムアプリは地球温暖化係数(GWP)がゼロのアンモニア(NH₃)と、GWPがわずかに二酸化炭素(CO₂)の2種類の自然冷媒を組み合わせた、冷熱システムを構成するもの。メカニカルシールの半密閉型圧縮機の開発や

CO₂液ポンプにキャンドモーターを搭載しており、NH₃系統・CO₂系統ともバックレスバルブを採用した上で配管のステンレス化による腐食対策などを施している。冷媒の外部への漏えいを限りなくゼロに近づける仕組みを設けているのが特長。省スペースでメンテナンス性にも優れる。

今年から「NiCRE S」のシステム効率を高めつつユニットを小型化した改良版を投入。大手食品・冷蔵倉庫会社の冷蔵倉庫向けに2基納めた。別途、今期中に10数件の納入予定を控えているという。また庫内側のアプリでは、自然対流&ふく射冷却新システム「Yuricargo」(ユリカーゴ)の冷却効率をさらに高め、F級温度帯でありながら、セミ超低温保管と同等の品質を実現させたシステムとなるようブラッシュアップした。その上で、荷さばき室に高効率太陽放射温調システム「DEMS」(ディームス)を併用する提案を同社は実施。採用に至る事例が複数あったようだ。茨城県

内での冷蔵倉庫新築案件では、冷熱システムに「NiCRE」が、庫内側には「Yuricargo」(ユリカーゴ)が採用され、3月に竣工(しゅんこう)した。沖繩県内の低温物流倉庫会社向けの「NiCRE S」と超低温二元冷凍システム「CARUS」(カールス)の双方が冷熱源システムに同時採用され、今年中の完工を見込む。国内受注状況に加速感が伴ってきた。

長谷川鉄工は自社で顧客を囲い込む営業に固執しない点も企業カラーとしている。例えば東北地区では、同社の冷凍機販売先となる冷設工事会社が精力的に「NiCRE S」を顧客に提案。長谷川鉄工が技術支援に回る形で同冷設工事会社と長谷川鉄工がWIN-WINの関係構築を築いた上で「NiCRE S」を販売できた事例がある。「日ご

りながら、各種冷熱アプリの国内浸透を一層図っていききたい(狩野剛一取締役・冷熱技術センター長との意向だ。それ故「全国各地を対象に、地域ごとの協業先を引き続き募っていく」としている。

業でこれらのアプリが大規模の低温物流倉庫などで採用実績を増やし、一層の普及に向けて加速感が伴ってきた。今期も自社のエンジニアリング部門による直需提案に加え、地場の冷設工事会社とも連携を図り、自社アプリの拡販を目指す。

「新型コロナウイルス禍でもボジティブ思考を貫ける真付けとなっているのは、自社ブランドの冷熱アプリへの手懸えだ。『一足飛びには行かないが、着実に、国内・海外の双方で低温物流倉庫向けの採用実績を増やしている』(小野社長)。特に国内事業で同社の主要顧客である低温物流倉庫会社社教社に対し、採用実績が広がりを見せるのがNH₃/CO₂冷却システム「NiCRE」(ニクレ)だ。同システムアプリは地球温暖化係数(GWP)がゼロのアンモニア(NH₃)と、GWPがわずかに二酸化炭素(CO₂)の2種類の自然冷媒を組み合わせた、冷熱システムを構成するもの。メカニカルシールの半密閉型圧縮機の開発や

CO₂液ポンプにキャンドモーターを搭載しており、NH₃系統・CO₂系統ともバックレスバルブを採用した上で配管のステンレス化による腐食対策などを施している。冷媒の外部への漏えいを限りなくゼロに近づける仕組みを設けているのが特長。省スペースでメンテナンス性にも優れる。

今年から「NiCRE S」のシステム効率を高めつつユニットを小型化した改良版を投入。大手食品・冷蔵倉庫会社の冷蔵倉庫向けに2基納めた。別途、今期中に10数件の納入予定を控えているという。また庫内側のアプリでは、自然対流&ふく射冷却新システム「Yuricargo」(ユリカーゴ)の冷却効率をさらに高め、F級温度帯でありながら、セミ超低温保管と同等の品質を実現させたシステムとなるようブラッシュアップした。その上で、荷さばき室に高効率太陽放射温調システム「DEMS」(ディームス)を併用する提案を同社は実施。採用に至る事例が複数あったようだ。茨城県

内での冷蔵倉庫新築案件では、冷熱システムに「NiCRE」が、庫内側には「Yuricargo」(ユリカーゴ)が採用され、3月に竣工(しゅんこう)した。沖繩県内の低温物流倉庫会社向けの「NiCRE S」と超低温二元冷凍システム「CARUS」(カールス)の双方が冷熱源システムに同時採用され、今年中の完工を見込む。国内受注状況に加速感が伴ってきた。

長谷川鉄工は自社で顧客を囲い込む営業に固執しない点も企業カラーとしている。例えば東北地区では、同社の冷凍機販売先となる冷設工事会社が精力的に「NiCRE S」を顧客に提案。長谷川鉄工が技術支援に回る形で同冷設工事会社と長谷川鉄工がWIN-WINの関係構築を築いた上で「NiCRE S」を販売できた事例がある。「日ご

りながら、各種冷熱アプリの国内浸透を一層図っていききたい(狩野剛一取締役・冷熱技術センター長との意向だ。それ故「全国各地を対象に、地域ごとの協業先を引き続き募っていく」としている。

業でこれらのアプリが大規模の低温物流倉庫などで採用実績を増やし、一層の普及に向けて加速感が伴ってきた。今期も自社のエンジニアリング部門による直需提案に加え、地場の冷設工事会社とも連携を図り、自社アプリの拡販を目指す。

「新型コロナウイルス禍でもボジティブ思考を貫ける真付けとなっているのは、自社ブランドの冷熱アプリへの手懸えだ。『一足飛びには行かないが、着実に、国内・海外の双方で低温物流倉庫向けの採用実績を増やしている』(小野社長)。特に国内事業で同社の主要顧客である低温物流倉庫会社社教社に対し、採用実績が広がりを見せるのがNH₃/CO₂冷却システム「NiCRE」(ニクレ)だ。同システムアプリは地球温暖化係数(GWP)がゼロのアンモニア(NH₃)と、GWPがわずかに二酸化炭素(CO₂)の2種類の自然冷媒を組み合わせた、冷熱システムを構成するもの。メカニカルシールの半密閉型圧縮機の開発や

CO₂液ポンプにキャンドモーターを搭載しており、NH₃系統・CO₂系統ともバックレスバルブを採用した上で配管のステンレス化による腐食対策などを施している。冷媒の外部への漏えいを限りなくゼロに近づける仕組みを設けているのが特長。省スペースでメンテナンス性にも優れる。

今年から「NiCRE S」のシステム効率を高めつつユニットを小型化した改良版を投入。大手食品・冷蔵倉庫会社の冷蔵倉庫向けに2基納めた。別途、今期中に10数件の納入予定を控えているという。また庫内側のアプリでは、自然対流&ふく射冷却新システム「Yuricargo」(ユリカーゴ)の冷却効率をさらに高め、F級温度帯でありながら、セミ超低温保管と同等の品質を実現させたシステムとなるようブラッシュアップした。その上で、荷さばき室に高効率太陽放射温調システム「DEMS」(ディームス)を併用する提案を同社は実施。採用に至る事例が複数あったようだ。茨城県

内での冷蔵倉庫新築案件では、冷熱システムに「NiCRE」が、庫内側には「Yuricargo」(ユリカーゴ)が採用され、3月に竣工(しゅんこう)した。沖繩県内の低温物流倉庫会社向けの「NiCRE S」と超低温二元冷凍システム「CARUS」(カールス)の双方が冷熱源システムに同時採用され、今年中の完工を見込む。国内受注状況に加速感が伴ってきた。

長谷川鉄工は自社で顧客を囲い込む営業に固執しない点も企業カラーとしている。例えば東北地区では、同社の冷凍機販売先となる冷設工事会社が精力的に「NiCRE S」を顧客に提案。長谷川鉄工が技術支援に回る形で同冷設工事会社と長谷川鉄工がWIN-WINの関係構築を築いた上で「NiCRE S」を販売できた事例がある。「日ご

りながら、各種冷熱アプリの国内浸透を一層図っていききたい(狩野剛一取締役・冷熱技術センター長との意向だ。それ故「全国各地を対象に、地域ごとの協業先を引き続き募っていく」としている。